

芦屋市立美術博物館

2023 年度 事業計画書

(指定管理者)

小学館集英社プロダクション共同体

芦屋市立美術博物館及び芦屋市谷崎潤一郎記念館は昨年度「機械設備等改修工事」が実施され、本年度指定管理第3期の5年目はリニューアル記念の年であり、第3期の最終年度となります。4月15日（土）から同時開催する展覧会は「リニューアルオープン記念特別展」と題し、展覧会の観覧のみならず、リニューアルされた両館の姿を見て頂く機会とも考えております。

芦屋市立美術博物館の展覧会としては、当館コレクションから芦屋の美術の発展に貢献された伊藤嗣郎の作品を中心に2023年度リニューアルオープン記念特別展「芦屋の美術、もうひとつの起点—伊藤嗣郎」を開催、こどもから大人まで楽しめる絵画の魅力に迫ります。7月から9月にかけては、「最後の浮世絵師 月岡芳年」展を開催、当館では久しぶりの浮世絵展として、江戸時代から明治時代に活躍された浮世絵師に焦点を当てた展覧会を開催します。また10月から2月にかけては、当館のコレクション作品を現代の作家が新たな視点で調査・研究しその成果を展示するart resonance vol.01「時代の解凍」展2月から3月は「第41回 芦屋市造形教育展」そして「第67回 芦屋市展」と続きます。

歴史資料展示室では、「常設展示室」として大きくリニューアルし、こどもを中心におとなまで、芦屋の歴史と文化財を楽しんでいただける新たなスペースに生まれ変わります。

芦屋市谷崎潤一郎記念館は、リニューアルオープン記念特別展として「文豪新生～谷崎、阪神間へ100年の一步～」を開催、関東大震災をきっかけに阪神間に移住し、大文豪へと開花していく姿を展示します。9月～12月にかけては、展示資料を題材として「秋の特別展 「モノたちの物語～展示資料を楽しむ～」(仮)を開催、12月から3月にかけては、冬の特別展 「谷崎が・捨てた・「細雪」～反故原稿の中の名作～」(仮)、(併設)通常展「谷崎潤一郎・人と作品」で1年を締めくくります。

また、「芦屋市立美術博物館」と「芦屋市谷崎潤一郎記念館」を一括運営することのメリットを生かし、より幅広い世代の市民に愛される施設を目指します。好評の両館の入館料相互割引も継続します。そして美術博物館については「芦屋市立美術博物館運営基本方針」に基づいた管理運営を行い谷崎館についても設置目的、使命に沿って運営いたします。

自主事業である「あしやつくるば」は実施予定です(5/20.5/21)。また教育普及事業につきましては、展覧会開催時、年間企画としては「アートスタディプログラム まなびはくルーム 2023」を年6回実施します。

1. 指定管理者の概要

指定管理者名	小学館集英社プロダクション共同体
代表者名	株式会社 小学館集英社プロダクション

	代表取締役社長 都築 伸一郎
所在地	本 社：東京都千代田区神田神保町2-30 昭和ビル 関西支社：大阪市北区曾根崎新地2-6-12 小学館ビル5階
電話番号	本 社：03-3222-9100 (代表) 関西支社：06-6485-8086 (パブリックサービス事業課)
FAX番号	関西支社：06-6485-8088
担当	運営管理：株式会社 小学館集英社プロダクション 維持管理：グローバルコミュニティ株式会社

2. 個人情報保護

管理上知り得た利用者・関係者の個人情報を保護するために、「芦屋市立美術博物館及び芦屋市谷崎潤一郎記念館 個人情報保護マニュアル」に沿った、下記の方策を徹底します。

- ① 法令で認められている場合を除き、個人情報の第三者提供、開示を禁止します。
- ② 個人情報を取得した書類、パソコン、CD、メモリなどの媒体を許可なく外部に持ち出すことを禁止します。
- ③ 紙媒体での個人情報は、必要最小限の保管とするとともに、鍵付きのロッカーに厳重に保管します。
- ④ ホームページ、メールなどへのウイルス侵入を防ぐためセキュリティソフトの整備、定期的なネットワークチェックを行います。
- ⑤ 個人情報の収集時には、必要に応じて職員が説明を行います。
- ⑥ 個人情報の取り扱い業務を外部に委託する場合は、委託先と協議の上覚書を取り交わすなど、厳重な管理を行います。
- ⑦ 個人情報保護に関する研修を年1回以上実施し、定期的に職員が個人情報の取り扱いについて徹底する機会を設けます。
- ⑧ 個人情報保護に関する内部監査を実施します。

3. 安全管理対策

利用者の安全を第一に考え、法令を順守した適切な内部管理を行うとともに、可能な限り危機が起こる前に予見し、危機の回避を図る方策と体制を整えます。「芦屋市立美術博物館及び芦屋市谷崎潤一郎記念館危機管理マニュアル」に沿った、下記の方策を徹底します。

- ① 緊急時の状況を想定した防災訓練、防犯訓練を行い、不測の事態に備えます。
- ② 避難経路の確保、非常時の避難器具、消火器具の作動確認を定期的に行います。
- ③ 芦屋市、消防、警察等、関係機関との連携を密にし、防犯情報等の共有に努めます。
- ④ 利用者、周辺施設と連携した訓練を行い、地域ぐるみの防災・防犯体制構築を図ります。
- ⑤ 危機管理マニュアルは職員の周知徹底を図るため週1回の読み合わせを行い、状況に併

せた改訂を重ねていきます。

- ⑥ 新型コロナウイルス感染症感染拡大防止につきましては、本年度も引き続き安全対策の最重要課題として、兵庫県、芦屋市との連携を取りながら対策を緩めることなく実施します。

4. 研修

職員のスキルアップ、安全管理体制の徹底を図るため、定期的に研修を実施します。

研修名	対象	頻度
新人研修	新規採用者	入職時
個人情報保護・セキュリティ研修	全職員	年1回以上
接遇・マナー研修	全職員	年1回以上
避難訓練・防災訓練	全職員	年2回以上
防犯訓練	全職員	年1回
職務研修 ※業務に応じたスキルアップなど	各担当職員	職員の申請に応じて責任者が承認

5. その他

①地域、市民との連携

地域、市民、利用者と協同し、共に美術博物館及び谷崎潤一郎記念館を創り上げていくために下記の取り組みを実施します。

i) アンケート調査に基づく顧客満足度の向上

アンケート調査を引き続き実施分析し、市民をはじめ幅広い利用者により親しまれ、利用される美術博物館・谷崎潤一郎記念館を目指します。また回収率を上げるために受付での配布時のお願いや、アンケート記入場所の追加設置等、創意工夫して回収率の向上を目指します。

ii) 博物館実習の受け入れ

毎年、10人以上の大学生の受け入れをしていますが、今後も学芸員育成のため、カリキュラムを充実し、広く募集します。例年、応募者が多数のため大学ごとに人数を割り振り不公平のないよう努めます。

*2021年度実績（2022年は「機械設備等改修工事」のため実施せず。）

神戸大学・神戸松蔭女子学院大学・近畿大学・京都芸術大学（以上芦屋市立美術博物館）

武庫川女子大学（芦屋市谷崎潤一郎記念館）

iii) 職業体験（トライやる・ウィーク）

市内及び市外の中学生のトライやる・ウィークでの職業体験学習の受け入れをし、美術・博物・文学に関心のある若い世代に体験の場を提供します。

iv) 館だよりの発行

両館をより多くの市民に理解をいただくため、年1回、館だよりを発行します。

②収蔵品台帳の整備

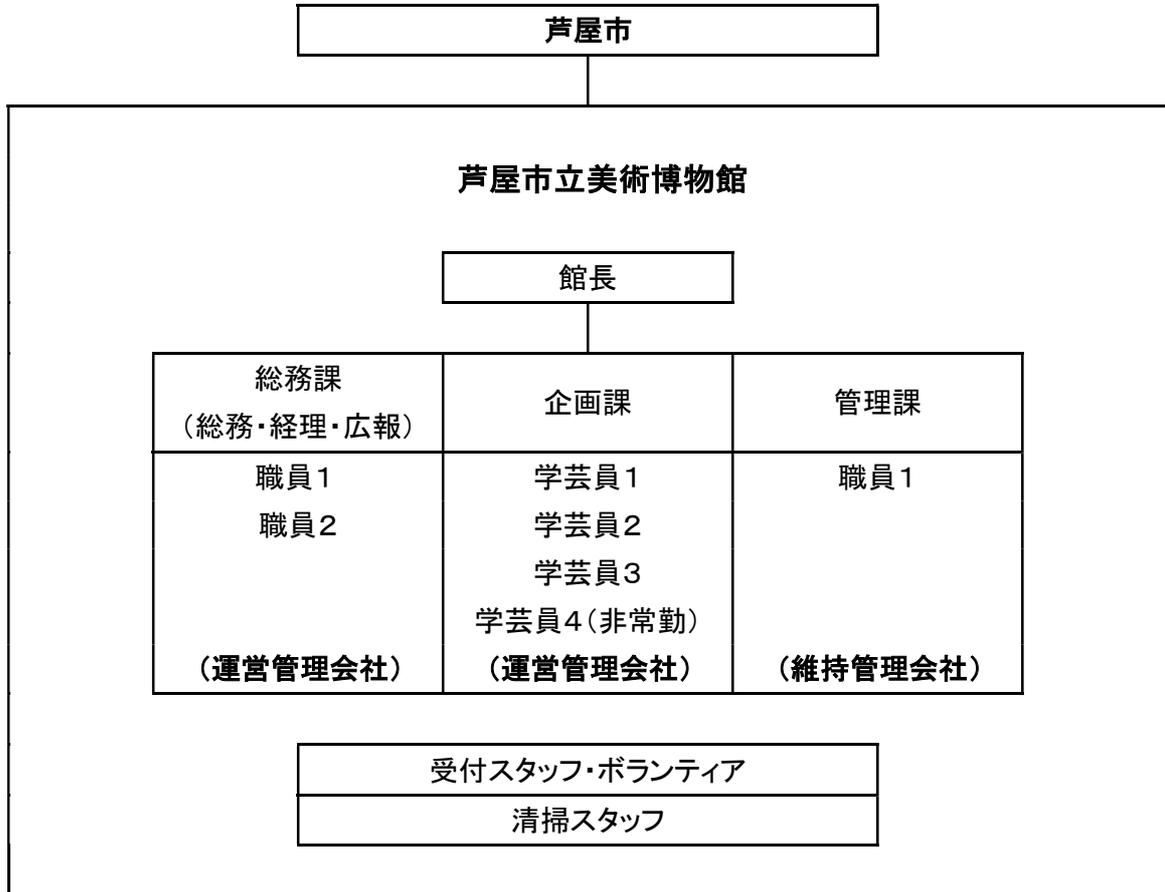
館の収蔵品の状況把握と適切な管理のため、市と相談の上、収蔵品台帳の整備を引き続き行い、開館以来の未整理資料の管理改善、かつ運営上最善な収蔵管理体制を構築する為の方法も市と相談の上、共通の達成目標を達成すべく努力します。

③館蔵品の調査・研究

収蔵品台帳の整備と並行して、館蔵品の調査・研究を実施します。

芦屋市立美術博物館

1. 組織体制



2. 施設職員体制

施設職員	館長 兼 事務局長	: 1名
	総務課	: 2名
	企画課 (学芸員)	: 3名 (美術2名、歴史1名) 非常勤 (1名・歴史担当)
	管理課 (防火管理者)	: のべ1名 (非常勤職員3名)
※ その他展覧会受付スタッフ、ボランティアは展覧会等に併せて配置		
事務分掌	館長 兼 事務局長	: 館全体の総責任者
	総務課	: 総務事務、経理、各種申請書管理、広報活動 他
	企画課	: 展覧会・教育普及事業の企画・実施、作品の保存 調査・研究、各種広報物の作成 他
	管理課	: 施設、設備の維持管理、危機管理

3. 芦屋市立美術博物館運営基本方針

美術博物館の設置目的・使命に基づいて、下記の項目に沿った管理運営を行います。

【設置目的】

美術及び歴史に関する資料を収集し、保管し、及び展示して市民の利用に供し、その教養の向上を図り、もって市民文化に寄与することを目的とする。

【使命】

- (1) 美術部門と博物部門の共存
- (2) 芦屋ゆかりの美術作品・歴史資料等の継承
- (3) 市民参画・協働の促進
- (4) 子どもへの教育
- (5) 学習機会の提供

4. 利用料金

利用料金は、条例に沿った下記の料金設定を据え置きとします。

① 観覧料

区分	個人	団体 (20人以上)	特別展示観覧料
一般	300 円	240 円	2,030 円の範囲内において教育委員会がその都度定める額
大学生・高校生	200 円	160 円	
中学生以下	無料		

② 特別観覧料

区分		特別観覧料 (1点1日につき)	
熟覧		300 円	
模写、模造等		500 円	
撮影	モノクローム	学術研究を目的とする場合	200 円
		出版等の収入が伴う場合	1,010 円
	カラー	学術研究を目的とする場合	400 円
		出版等の収入が伴う場合	2,030 円

③ 施設使用料

区分	使用料		
	午前 10 時から 正午まで	午後 1 時から 午後 4 時 30 分 まで	午前 10 時から 午後 4 時 30 分 まで
講義室	2,850 円	4,370 円	7,230 円
体験学習室	4,170 円	6,820 円	11,000 円

④ 駐車場使用料

時間	料金
1 時間以内	無料
1 時間を超えた場合	100 円 / 30 分

5. 展覧会予定（別途年間予定表を添付）

4 月 15 日（土）から同時開催する展覧会は「リニューアルオープン記念 特別展」と題し、展覧会の観覧のみならず、リニューアルされた両館の姿を見て頂く機会とも考えております。

具体的な内容は、下記の通りです。（※展覧会名称は変更する場合があります。）

【第一展示室/第二展示室】

◇4 月 15 日（土）～7 月 2 日（日） 68 日間

リニューアルオープン記念 特別展「芦屋の美術、もうひとつの起点—伊藤嗣郎」

洋画家・伊藤嗣郎（1907-1994）は、1928 年より芦屋に住み、日々の生活や旅先で心惹かれたモチーフを、独自の技法で愛情豊かに描きました。1941 年新制作協会に入会。温厚な人柄が慕われ、芦屋のアトリエには画家仲間や文化人が集い、絵画教室も開かれます。1948 年には芦屋市美術協会の創立に参加し、芦屋の美術の発展に貢献しました。

本展では、約 60 点の伊藤作品とあわせ、伊藤が交流した多彩な画家たちの作品を展示します。唯一無二伊藤絵画の内実に迫り、伊藤の画業の再検討を試みます。

◇7 月 22 日（土）～10 月 9 日（月・祝） 69 日間

「最後の浮世絵師 月岡芳年」展（仮）

江戸時代の新橋で生まれた月岡芳年（1839-1892）は、12 歳のときに歌川国芳（1797-1861）に学び、15 歳で画壇デビューしました。22 歳頃から本格的に浮世絵師として活動をはじめ、54 歳で没するまでに数多くの作品を世に出しました。

本展では、妖怪などの怪奇をテーマにした「新形三十六怪撰」や、芳年の代表作である「月百姿」など数多く展示し、芳年のたくましい絵心で描かれた魅力あふれる作品の数々を紹介いたします。

◇10月28日（土）～2月4日（日） 79日間

「art resonance Vol.01 「時代の解凍」展

関西を拠点に国内外で活躍する、藤本由紀夫、高橋耕平、野原万理恵、黒田大スケの4名の作家が当館コレクションから山崎つる子、津高和一、山田正亮、田中敦子の作品に注目し、様々な方法で作品を読み解いていきます。

彼らが導き出していく仮説や論考は、作品の新たな解釈や意義、これまで見えていなかった作品の表情や作家像を表してくれると考えます。

本展は、現代に生きる作家が当館コレクションを新たな視点で調査・研究し、その研究成果として展覧会＝「思考を深める場」を立ち上げる方法によって、新たな展望を提示します。

◇2月10日（土）～2月18日（日）8日間

第41回 芦屋市造形教育展

芦屋市の未就学児、小学校、中学校の子どもたちの作品を全館（歴史資料展示室を除く）にわたり展示します。

主催：芦屋市教育委員会、芦屋市造形教育研究会

◇3月5日（火）～3月24日（日）18日間

第67回 芦屋市展

「何人も随意に応募することができます。」という自由さが特色の公募展として1948年に第1回展が開催されて以来、本展は今期67回目となります。

本年も多くの方々に親しみをもってもらえる公募展を目指します。

部門には平面（油彩画、水彩画、日本画、版画などを含む）部門と写真部門があり、芦屋市長賞、芦屋市議会議長賞、芦屋市立美術博物館奨励賞、審査員特別賞、寄託賞などが選ばれます。また前回に引き続き、会期中の来場者の投票で選ぶ賞も実施されます。

主催：芦屋市、芦屋市教育委員会、芦屋市立美術博物館

【歴史資料展示室】

◇4月15日（土）～3月24日（日）242日間

令和5年より歴史資料展示室を常設展示室としてリニューアルします。

芦屋市のプロフィール、地理的特徴、現在の住宅都市となった背景、古代の芦屋についてなどを数多くの資料を通して紹介します。

進化した歴史資料展示室をご堪能いただきます。

6. 講座・イベント等の予定（教育普及事業）

「芦屋市立美術博物館運営基本方針」で示されている「学習機会の提供」という使命に則り、幅広い世代に美術・歴史等に触れることのできる機会を提供します。また、展覧会に連動した講演会やワークショップ等を盛り込み、芸術文化事業に対する理解を深めていただく機会を提供します。

○アートスタディプログラム まなびルーム 2023

2020年度から2022年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防ぐため本プログラムの開催を見送ったが、終息の兆しが見え、開催等において必要な感染防止対策を徹底することで集客に係る人数制限が緩和されたことにより、2023年から再開する。引き続き、本プログラムを通して美術を学び発見する面白さ・楽しさ・難しさといった体験から、自己の既成概念を超えて様々な事柄を感じ、考える力を一層強め、より豊かな生活への一歩としていただけるようなプログラムを企画していく。なお、3年ぶりの再開ということもあり、こどもから大人までどなたにも参加していただけるよう本年度はワークショップ並びに講座等を開催し、幅広い年齢層に参加していただきたいと考えている。本プログラムでは、イベント参加毎に押印するスタンプカードを発行する（1人につき1枚発行）。本カードスタンプを一定数集めた方には抽選でオリジナルグッズをプレゼントするほか、カード提示により開催中の展覧会を団体料金で鑑賞できるものとする。美術館活動を楽しんでいただきながらリピーター総の拡大を図っていききたい。（カード保持者本人のみ。他の割引との併用不可）実施回数年6回（予定）、参加者数見込み285人。

7. 自主事業（あしやつくるば）

手作り品の販売やワークショップ、おいしい食べ物や古書の販売など、ジャンルを超えた様々な交流や体験を通じて、大人もこどもも楽しい時間を過ごすイベントです。その結果、美術博物館を通じ、市民だけでなく、幅広い世代・地域を問わない交流の場となり、当館がより身近な存在となることを目指します。また谷崎潤一郎記念館も参加することで、両館の相互の入館を促進します。

当該事業は以下の3点を目指し、実施します。

1. 「つくる」ことから生まれる喜びや、発見を共有できる場の提供。
2. 当館の芝生のお庭でお買い物や食事を楽しめる場。
3. 年2回のイベントを継続実施し、当館の存在を認知してもらうこと。

本年度春（5/20, 5/21）は、市内中学校の吹奏楽部も参加やライブイベントを予定。また子供向けのワークショップも実施し、ご家族の動員を促します。

8. 富田碎花資料について

美術博物館に収蔵されている富田碎花に関する各種資料を用いて、富田碎花旧居で年間を通じて展示を行い、年1回程度展示替えを行います。

